

大和合金

売上げ過去最高目標

45億 期 船舶・航空機用堅調

特殊銅合金メーカーの大和合金（本社＝東京都板橋区、萩野源次郎社長）は、2016年3月期の売上高目標を過去最高の45億円と設定する。船舶や航空機の部品向け、半導体関連素材なども堅調に推移しており、前期（15年3月期）の42億6000万円から5%強伸び

ばしたい考えだ。同社は産業機械や輸送機器で軸受などの部品に使われるクロム銅やアルミ青銅、ベリリウム銅、コルソン系合金、高力黄銅などを製造、加工する。前期は需要が全般的に上向き、過去最高だった08年3月期の42億7000万円の更新を狙った

が、わずかに到達しなかった。ただ、前期比では10年3月期から5期連続での増収となった。特に船舶向けや航空機向けの販売が堅調。船舶のプロペラ用部品に使われるアルミ青銅は、国内外で需要が高水準で推移している。海外船舶向けの比率も

高いことから、昨年前半に国際船級協会の独立、米ABSの製造承認を取得した。海外

6月にはフランスで開催される航空宇宙機器の国際見本市、パリ・エアショーに日本貿易振興機構（JETRO）の支援を受けて出展する。2年に1回開

の船主からの受注をさらに取得しやすくなるの見込む。航空機向けは世界的に市場が拡大傾向。同社は足回りに使われる軸受（ブッシュ）向けにアルミ青銅や高力黄銅の販売実績を積み増やしている。

催されるもので、同社は前回に続く出展となる。



米ABSの製造承認